



医療法人 清潮会 三和中央病院 広報誌

2021年夏発行 No.27

# POCO a POCO

ポコ・ア・ポコ

## 基本理念

### 安心できる、心暖まる医療

1. 私たちは誠実で親切な心をもって医療に従事します
2. 私たちは人権を尊重した良質な医療を提供します
3. 私たちは地域精神医療と地域ケアを実践していきます

POCO a POCO(ポコ・ア・ポコ)とは……

ポコ・ア・ポコとは少しずつという意味があり、何事も少しずつ、徐々に良くなっていけばなどの思いを込めてみました。

発行人：塚崎 稔

発行所：長崎県長崎市布巻町 165-1  
TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588  
<http://www.sanwa.or.jp>



デイケアメンバー  
塗り絵：多田耕三

## ～地域と関わって～

北4病棟副師長 原田修治

精神科認定看護師を取得して5年目となりました。まだまだ私自身の力不足もあり認定看護師としての認知度も低く感じております。基本的には組織横断的に各病棟のスタッフと共に患者さんの看護の方向性を悩みながらケアを行っています。また、他部門との連携、調整役、看護上の困りごとの相談役、院内教育を活性化させるなどの活動をしています。

今回、院内の他部門との交流をきっかけに、地域より精神疾患をもった方への相談や、認知症をもつ高齢者の関わり方や対応について、教えてほしいとの依頼がありましたので、活動内容についてご紹介したいと思います。

認定看護師の取得時に、認知症治療病棟にて家族会「よかよかの会」の立ち上げメンバーに病棟師長の補佐として経験をさせていただきました。その際、近隣の地域包括支援センターより、地域で活動されている民生委員、認知症ケアサポーター向けに『認知症の方への関わり方』についての講話、『徘徊模擬訓練での声かけ方法』で、参加者に対してアドバイスをしてほしいなどの依頼を受け、現在に至っております。地域包括支援センターと関わる中で、近隣の自治体や他の地区の支援センターとも繋がりが持てるようになり、このような状況を考えると、地域の認知症への関心度が高まってきていると感じます。

当院の近隣地区の高齢化も進んでいます。高齢化が進むと、認知症を発症するリスクも高まっていきます。2025年には団塊の世代が75歳以上になり、長崎市の高齢率が35%を超え、5人に1人が認知症になるなどのデータも出ています。行政では、地域の方への認知症に関する啓発活動やサポーターの育成も積極的に行っています（新オレンジプラン）。私も参画するようになり、その一助になるべく毎年協力をさせていただいています。

今年度、当院では認知症地域支援委員会が発足されました。最近、特に近隣地区から、認知症の方への対応、治療についての相談がきていることもあり、委員会では病院として地域に貢献できることは何かを企画、実践し、また今できている活動（強み）を更に強化していきたいと考えています。私自身も精神科認定看護師として、看護に関する相談や実践力の向上はもちろんのこと、今後もコロナ禍ではありますが、地域での活動をするなかで自己研鑽をしていく所存です。



# 私の思う精神科看護の未来 (コロナ禍における現実)

南3病棟師長 内野忠彦



日本の精神科を取り巻く環境はこの30年でかなり変化した。進化したかどうかは定かではないが変わったことは確かです。

私が入職した当時は「精神衛生法」の時代でした。精神衛生法では、戦後の精神疾患患者増加に伴い精神科の必要性から精神病院の設置を義務付け、精神障害者を病院へ強制的に収容する措置入院が主流でした。

その後、様々な問題の元に改正されたのが「精神保健法」です。(のちの精神保健及び精神障害者福祉に関する法律) この法には精神障害者の基本的な人権の擁護とノーマライゼーションと呼ばれた社会復帰の促進がうたわれています。それまでは閉鎖病棟が当たり前であり、患者の外出も強く制限されていました。しかし法律の改正により、従前の価値観は全く通用しなくなり、人権に配慮した対応を求められるようになりました。任意入院と医療保護入院の法律上の整備がしっかりされ、外出は自由に行えるなど、行動の制限を最小化される取り組みが考えられてきました。

治療にも患者本人の同意が求められ、患者本人の治療参加が当然になりました。精神科看護においても丁寧な説明と同意を求めながら症状のみならず生活全般も含めて関わりを持つようになり、それまでの管理を中心とした関わりでなく、本人の自由意思に基づいた取り組みに変化しました。「幸せ度」が少しでも望む形で向上できることを目標としました。患者に寄り添う事や、ニーズに合わせた個別性のある看護計画の立案とその実施です。その人らしさや自由のある生活、自分の事は自分で選択できるための援助ではないかと考えて大切に組み組んできました。

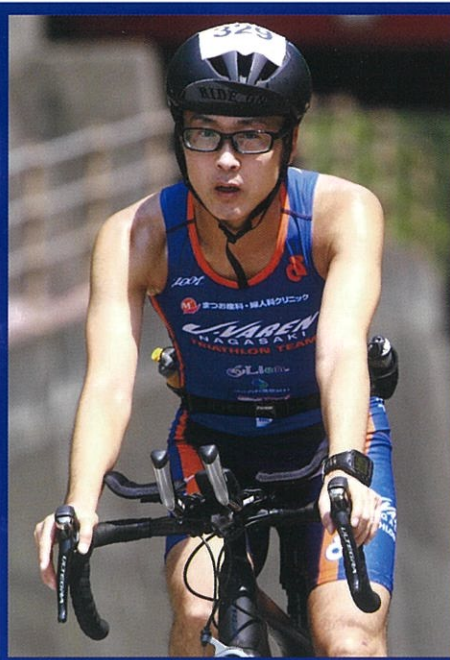
そうしたなかで巻き起こったのが今回のコロナ禍です。今までの生活が一変しました。もちろん私達もですが特に大きく影響を受けたのは入院患者を含む精神障害者の方たちではないでしょうか？コツコツと積み上げてきた人権に対する取り組みや社会参加への取り組みは、ことごとく中止となり感染拡大を理由に様々な自由が侵害されてきました。大変な災害が発生した場合は確かに仕方がないことなのかもしれません。しかし、それでも私は非常に心配でなりません。このことが当たり前になってはしまわないか？この30年、みんなで築き上げた精神科のあり方が逆行してしまうのではないかと。ここで私たちは今一度初心に帰り、権利を侵害してしまう事に対して繊細であるべきではないか？と思っています。正しさにまぎれて考えること感じることに鈍感になってはいないでしょうか？

この状況が解決したのちには、精神科看護にとって弱者や少数派の味方であることが求められるのではないのでしょうか。自由と人権の守られた精神科医療に戻るからこそ精神科看護の未来と言えるのではないのでしょうか。



当院における院内断酒例会は、平成7年10月より開始しおよそ25年間、ほぼ毎月第3金曜日に欠かすことなく行ってきた断酒治療プログラムです。参加者は、入院治療中・外来通院中・デイケア利用中の方に加え、長崎・三和断酒会のメンバーさんなど多くの方が参加されています。ここでは自身の依存症にまつわる体験談から現在の悩み、今後の抱負など何を話しても構いません。また話さなかったとしても一切とがめられることはありません。参加すること自体に意味があるのです。

残念ながらコロナ禍において昨年11月より一時中断していましたが、今年2月からZoomを使ったオンライン例会を開催したことで、一堂に会さなくても離れたところから参加できるようになりました。酒害に悩む様々な方の集いの場として、今後も欠かすことなく継続して開催していけるよう尽力致しますので、多くの方のご参加をお待ちしております。当院の院内例会へ参加ご希望の方は当院 PSW 徳住 (TEL:095-898-7511) までご連絡下さい。

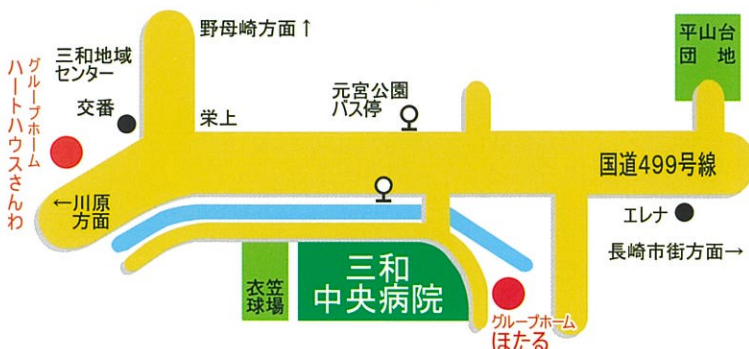


職員の **PINT** 第2回  
趣味・特技に

看護師 野原 茂雄

今回は私の趣味でもあるトライアスロンについて紹介をします。トライアスロンにはいくつか種類があるのですが、私が目標としている大会は「五島長崎国際トライアスロン」通称「バラモンキング」という大会です。スイム 3.8km、バイク 180km、ラン 42.195km といつんでもない距離を制限時間15時間内で走破するというかなり人間離れした大会になります(笑)。もう50歳なので年々完走は厳しくなっていますが、60歳で完走！という目標を持ってこれからも楽しんでいけたらなと考えています。

○三和中央病院ホームページでは、新着情報・学会報告・今後の予定などリアルタイムで更新しています。  
詳しくはこちらまで→ <http://sanwa.or.jp>



医療法人 清潮会 三和中央病院  
診療科目: 精神科・心療内科・内科・歯科  
〒851-0494 長崎県長崎市布巻町 165-1  
TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588  
E-mail: info@sanwa.or.jp

医療法人 清潮会 あんしん  
訪問看護ステーション  
〒851-0494 長崎県長崎市布巻町 165-1  
TEL 095-893-8633  
FAX 095-893-8677

グループホーム ハートハウスさんわ  
〒851-0403 長崎県長崎市布巻町 72-1  
TEL・FAX 095-892-8780

グループホーム ほたる  
長崎県長崎市布巻町 624-1  
TEL・FAX 095-895-5550

医療法人 清潮会 さんクリニック

診療科目: 心療内科・精神科  
〒850-0842 長崎県長崎市新地町 8-16 ミナトパークビル 4階  
TEL 095-895-8160・FAX 095-895-8161 <http://www.sanwa.or.jp/sanclinic/index.html>